

二〇一一年の夏は暑くなりそうですね。皆さん体調管理は出来ていますか。資源循環システムコース・教育システム改善委員会は4月からメンバーが入り替わり、新委員長として五十嵐先生、委員に胡桃澤先生を迎えました。

本委員会はコースのカリキュラムや講義の内容を継続的にチェックし、問題を改善することが目的で設置され、今年で9年目を迎えます。皆さんに定期的にお願いして、アンケートの分析や、改善案の提案などが主な活動内容となっております。



五十嵐新委員長 伊藤委員 胡桃澤新委員

新委員長から一言

この4月から委員長になりました五十嵐です。資源循環システムコースの教育改善に少しでもお役に立てるよう努力したいと思います。

私が大学を卒業した時代は、各専門分野に著名な教科書があり、その1冊を完全読破すれば、一生涯その分野の専門家としてやっていける雰囲気はまだ少しありました。私は衛生工学出身ですが、上水道はこの教科書、化学工学はこの教科書、土の力学はこの教科書というようにです。もちろん日本語だけでなく、英語の教科書も含まれています。したがって、ある研究室を卒業した後は、その研究室で学んだ専門を駆使して技術者として“一生飯が食える”と思われていました。

私が社会人となってからは、そうではない時代になってきたと感じ始めました。もちろん、流体力学が秀でている、構造力学が秀でている技術者・研究者と多く接し、非常に難しい問題を難なく解く姿を見て感嘆した記憶が鮮明に残っています。大学を出てまもない自分が、社会でどれだけ通用するのかと不安になったものです。何か自分が得意なことがないかと模索も続けていました。あるとき、社会から解決を要請される課題は、どうも特定の専門分野だけでは解けない問題が多多いということに気づきました。それこそ、何の得意科目もない私にとって、当時は、ベストではないが、そこそこ対応できそうな気がしました。そこで、今まで勉強もしたことがなかった地質や地球化学の勉強をし、従来の専門の水処理工学も含め、それらを総動員して課題の解決にあたるかどうかに奔走した記憶があります。現在解決できていない課題は、その構成が非常に複雑で相互に関連しあっているものです。これを解決するためには、異なる独自の専門を持った技術者が集団で対応しなければならぬと思います。

現在は、教育も行っていますが、学生には、私が学生のころとは異なり、この本だけ勉強していればよいと言うことはできず、将来は何が必要であるか、そのためにはどのような素養を身につければよいのかを、また模索しながら教育しているというのが実情です。将来の資源・エネルギー・環境問題の解決には、何を教育すべきかをいつも悩んでいるため、日々の教育が適切かどうか不安も感じますが、学生一人一人が独自の融合的な専門分野を見出せるよう努力したいと思います。教育に関する疑問があれば、いつでも気軽に教育システム改善委員会メンバーに相談ください。

コースへの意見・要望

H22年度のアンケートで寄せられたコースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は、結果の分析とともにコースHPに掲載しています。

Q. アンケートの質問3.(3) ‘現在のカリキュラムにはないが、あればよいと思う科目や学習内容(こんなことを勉強したい)’について、「英語に関する講義」や「世界のエネルギー情勢・経済」「プレゼンを磨ける講義」などが挙げられました。

A. 現行カリキュラムの皆さんには申し訳ありませんが、新しいカリキュラムでは「工学英語」「資源循環システムI,II」「資源循環デザイン」が整備され、「資源循環デザイン」の中ではグループワークや発表なども経験できるようになります。単位は出ませんが、大学院生でも、希望があれば受講してもかまいません。

Q. アンケートが回答しにくい、記入しにくいという意見も数件寄せられました。
 A. 質問と回答欄を近づけるなどの工夫をして、回答がしやすくなるように次回アンケートから改善します。

英語力アップに対しては、コースでいろいろできることがあります。当コースの各研究室には北大工学研究科の英語コースに所属する外国人留学生や、海外からのインターンシップ学生がいますので、研究室に入る前の2年生あるいは3年生の皆さんの各研究室への訪問を歓迎します。また、各研究室が主催するゼミや講演会についても掲示板で適時アナウンスしていますので、希望すればいつでも参加することができます。さらに、当コースは学生の海外インターンシップへの支援にも力を入れていますので、海外で就業体験をすることも可能です。いつでも教員まで気軽に相談して下さい。

当コースは学部生と教員、大学院生とのコミュニケーションを大切にしており、みんなで楽しめるイベントなどもたくさん企画しています。企業が学生に求める能力は普通の講義で得られる専門技術力だけでなく、自ら行動する力や協調性・コミュニケーション能力、まとめ力、異文化への理解・接し方など様々です。イベントを通じて、このような力を楽しみながら身につけませんか。

- ・ 4月, 5月: 海外インターンシップ生が資源に来学, 歓迎会・インターンシップ生との交流企画(週末)・報告会・送別会など
- ・ 6月: 資源綱引き大会, 工学部運動会
- ・ 7月: 資源杯ソフトボール大会
- ・ 9月: 2年生配属祝い(新歓パーティ)
- ・ 12月: 工学部卓球大会
- ・ 1月: 工学部雪上綱引き大会
- ・ 2月, 3月: 資源卒業・修了祝賀パーティ(追いコン)

海外インターンシップ体験記

資源からの海外インターンシップ派遣数(人)

年	学部生	院生	合計
2006	2	6	8
2007	0	12	12
2008	2	3	5
2009	8	7	15
2010	3	12	15

昨年海外インターンに行った修士学生からのメッセージ
 世界の広さを体感しよう~Boys & Girls Do Internship~



学生時代の3大後悔といえば『勉強、旅行、そして恋愛』。海外インターンシップ、この3つの後悔を解消してくれる、とっておきのチャンスです。海外での生活は毎日が勉強であり、新しい発見の連続、見知らぬ土地ならではのエキゾチックな出逢いが貴方を待っています。



【インターン参加者の証言】
 歳を重ねるごとに、人は挑戦を恐れるようになるって聞いたことあるけど、学生の内は思い切って挑戦するべきじゃないかな(K君)。
 約一ヶ月間、外国に滞在することで、自分の世界が広がりました(Oさん)。

TEACHER OF THE YEAR 2010

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2010年度のTeacher of the Yearは、「土の力学II」川崎先生

担当教員のコメント

この授業の担当は1年限りでしたが、土の力学が好きな学生になってもらうことを最優先に考えました。学生が自分の頭で考え、手を動かす授業となるように、毎回の授業で配付するテキストおよび演習問題の準備に時間をかけました。これからも精進していきたいと思っています。



この科目に寄せられたコメント
 ・生徒の理解を十分に見てくれていた
 ・問題をたくさん解いたので理解しやすかった
 ・説明がわかりやすかった ...etc.

本コースにおける教育改善のしくみ

